

「現代日本美術展」から

現代日本美術展は二十四日まで京都岡崎・京都市美術館で開催中

美術館の一室に他の展示作品 木を製材の特殊な機械にかけてと並んで直径五寸、長さ一尺〇・七寸というすい樹皮約の輪切りされた杉の木がごろんところがっている。見過せば者は二日ばかりで一枚々々重ねたの杉の丸木である。(最近、木や石や土など生のままの作品が多いから)もう少し注意して見よう。おやおや、何とマネギの皮のようにきわめてすく削られた樹皮のフランスを丁寧に積みあげてもとの杉の丸木に復元したものだ。原

第二の自然誘発

「作品は私と木のかかりあいを提示したものだ。皮だらけにした私の行為によって、木は今までなかった全く新しい一面を見せてくれる」と。

石川県に生まれ育った石川県は木どころであり、作者の家業も父祖代々の材木屋だ。そんな身近な具体的なところから木とのかかりあいテーマにえらび、これは五番目のプランを提示した作品である。うわすりがちでパターン化しやすい概念芸術を、近づきやすい姿で見せている。

現代日本美術展の佳作賞についてこのジャン・アート・フェスティバルで文部大臣賞を受賞。(亀田 正雄記者)

角永和夫の「Wood-No5-B」

